

WYD2023へ参加して

平野慶孝

今大会の大まかなスケジュールは、8/27～31に『教区の日々』があり、8/1～6に『本大会』、その後『振り返り巡礼』を行うというものでした。

教区の日々ではコインブラ教区で過ごしました。活動の拠点となったのは『サント・アントニオ・ドス・オリヴァイス教会』聖アントニオがフランシスコ会士として働いていた教会です。コインブラでは教会のすぐ近くに住んでいるイタリア人夫婦の家でホームステイさせていただきました。私ともう一人神学生を受け入れてくれたのは素晴らしい人達で、何一つ不自由なく、初めての海外で心から安心して過ごすことができました。また、食事の際に食前の祈りをするを当たり前を受け入れてくれたのが嬉しかったです。

私は日本ではカトリックにとっての当たり前が違和感なく受け入れられることが少ないと思っています。カトリック信者の少なさを考えると当たり前なのかもしれませんが、ポルトガルというカトリック人口が90%を超える国へきて、その差に驚きました。駐車している車の中にはロザリオが架けてあり、日曜日が定休日の店が多く、聖品の専門店ではないスーパーのようなところでロザリオや像が販売されていたりしました。

教区の日々では海外の若者主催のカテケージスやユースフェスティバルに参加し、聖母ファティマ聖堂を訪れ、順調に本大会が行われるリスボンへ現地時間の7/31の夜に到着しました。8/1早朝、体に異常を感じ、熱を測ると38度以上。記念式典に参加できないことが決まりました。現地の学校の体育館で1泊過ごした翌朝、私を含め4人の体調不良者が出たため、近くの教会へ隔離されることになり、私は本大会終了の8/6までそこにお世話になることとなりました。教会のボランティアスタッフ達は年齢層もバラバラで言葉は通じませんが、私たちがWYDに復帰できるように手助けをしてくれました。ミルククーポンが使用できない時は食事を用意し、喉を傷めている人にはうがい薬やのど飴をわたし、熱がある人には解熱剤などを飲ませ、水を補充し、寝床を用意してくれました。

今大会で教皇フランシスコは言いました。『立ち上がる手助けをしましょう。人を唯一上から見ていいときは、立ち上がる助けをするときです。』2019年に来日された際にも同様のことを若者に向けて言われていました。まさにそれを実践していた素晴らしい人達に会えたことだけでも、このWYDに参加した意義があったと私は思います。残念ながら本大会はYouTubeを通してリモートでの参加となってしまいましたが貴重な経験を積むことができました。

私も倒れた人が立ち上げられるように、手助けをできるような人間になりたいと思います。ただし、教皇フランシスコが『愛のように見えるエゴイズムに気をつけてください。』と言われたように、それがエゴイズムになってしまわないように、気を付けながら愛を持って隣人と関わり合いながら日々を過ごしていきたいと思います。